

教員から見るオンライン授業

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、春学期は授業をオンラインで実施せざるを得なかったことから、筑波大学における授業形式は主にオンデマンド型授業とリアルタイム型授業に大別された。学生側の意見としてオンデマンド型授業は授業動画を何度も見返すことができることから対面授業より復習が容易になったこと、リアルタイム型授業は対面授業のように教員からのレスポンスがすぐ来るのが授業としてやりやすい等が挙げられた。

このような意見があるが、教員側はこの春学期の授業についてどう工夫を凝らし、どう感じたのか。3名の教員に聞いてみた。

リアルタイム授業の長所と短所

もりしまあつゆき
森嶋厚行教授（図書館情報メディア系）はデータ工学概論（情報メディア創成学類開設）で、リアルタイム授業を実施した。森嶋教授は「リアルタイムの方が学生とのコミュニケーションは取りやすかった一方で、対面での授業よりやりとりに若干時間を要することになった。リアルタイムでの授業に慣れることができれば効率化できるかもしれない」と語る。本授業をリアルタイム授業にした理由は、森嶋教授の方から学生に質問して授業を進めることが多くあり、学生の理解度を把握しながら追加で説明をしたかったためだという。森嶋教授は、自身が感じた学生の苦勞として、学生が自身のパソコン

で演習ができるよう環境を構築するのに時間がかかっていたということ、集中力の維持が難しいのかもしれないということも挙げた。

新しい「大学」の可能性

春学期のオンライン授業について、ぜんほけいいち善甫啓一助教（システム情報系）は、「物理的・時間的制約を超えて授業の効率化が可能になった点で、授業がオンライン化されたのは幸いであった」と語る。善甫助教が担当していた「力学1」の授業は、例年受講生が700名を超えることから教室が四つに分けられていたが、オンライン化によって授業の一本化や、動画編集による無駄な時間を省いた授業のコンパ

クト化が実現された。一方で、コロナ禍における授業方針の議論・動画準備による教員等の時間的拘束の増大に加え、オンラインでの公正な期末試験の実施や実験授業の展開など、依然として課題が残っているのだという。

また、善甫助教は大学でオンライン授業が導入されることについて、長期的にみればメリットが多いと主張する。将来的に大学におけるオンライン授業の普及によって、他大学の授業選択が可能になるなど、世界的な授業方式の多様化、教員の負担削減、さらには大学の定員制度の廃止といった事柄が実現される可能性があるという。

「コロナ禍により大学においてオンライン授業が増加したことは、大学の在り方が変わる『チャンス』である」と善甫助教は前向きな姿勢を見せた。

捉え直される「学び」

のがみげん
野上元准教授（人文社会系）は、通常授業と比べてオンライン授業が良かったと感じる点として、プリントやリアクシオンシートなどの資料配布に時間を取られることが無くなり効率的に授業を進められたことや、すべての作業をパソコンだけでこなせたことを挙げている。一方、問題点としては、カメラをオンにしない

限り学生のリアルタイムの反応が見られないことを挙げている。

しかし、オンライン授業であっても対面授業と本質は変わらないと野上准教授は考える。それは、オンライン授業も対面授業と同様に「知的成長の入り口」となるからである。その上で、「多様な授業のあり方、つまり『知』への多様なアクセス経路があることを知ることができるのは、大学という場だからこそだ。好き嫌いの問題に落としてしまうのではなく、先生方の個性に準じた、教え方の多様性をもっと楽しんで欲しいなと思う」とも話す。

様々なことが制限される今、『学び』への向き合い方は私たち一人ひとりに委ねられる。



それぞれの自粛生活

自粛期間中の学生宿舎

2020年4月16日に緊急事態宣言の対象地域が全国に拡大されたことを受け、筑波大学は4月17日から6月18日にかけて入構禁止の措置を取った。この期間、宿舎入居者は買い出しなどの必要な外出を除いて自室での待機が要請され、不自由な生活を余儀なくされた。

自粛を伴う宿舎生活では、備え付けの椅子の質が悪く長時間座っていると腰が痛くなったほか、窮屈な宿舎の部屋では体育の課題を行うスペースを確保するのも困難だったと北川汰知さん(情報メディア創成学類2年)は言う。

その一方で様々なメリットもあった。例えば、宿舎生活ではトイレと風呂が共用であるため、自粛中も知り合いを見かけることができ、友人に会いに行けなくても精神面で余裕を保つことが出来た。しかし稲富拓人さん(生物資源学類2年)は「1年生の入居が延期になり、2年生もアパートに移る人や実家に帰る人が増加したことで宿舎の入居者が減ってしまい、知り合いと接触する機会も失われてしまった」と話す。他にも、オンラインゲームや通話アプリを活用することで、一人

の時間を過ごしていたという。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の第二波が日本を襲っている。今後学生が続々と入居していく中で、新たな困難が生まれることもあるだろう。感染拡大を契機に、今までの大学とは違った、新しいスタイルでの大学の在り方が確立されるかもしれない。また、実際に都内の大学では、来年の春学期もオンライン授業を検討しているところもある。このままオンライン体制が続き、対面で学ぶ機会が減るようであれば、学生宿舎で生活する意味も薄れていくことが懸念される。いつか、学生が不安を感じることなく宿舎生活を送ることができるよう願うばかりである。

つる入居への不安

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、新入生の学生宿舎入居も延期となった。大きな理由として、筑波大学の学生の多くが県外出身であることが挙げられる。筑波大学2021年度入学案内によると、新入生2,153人のうち県外出身者が1,834人、関東地方外で見ると928

人の学生が入学している。このように県外出身の学生が多い筑波大学で、現状を鑑みずに宿舎入居を行うことは、新型コロナウイルスの感染拡大を促してしまう可能性がある。多くの新入生は実家待機をしているが、中には4月に予定通り宿舎に入居し、つくばで生活している学生もいる。林凜子さん(人文学類1年)は、インターネットを活用して周辺の飲食店や日用品店などの情報を得ている。また、SNSで先輩とコミュニケーションを取るなどして、少しずつつくばでの生活に慣れているようだ。

とはいえ、不安や悩みもあるという。現時点では入居している人が少ないため隣人トラブルは起きていないが、これから入居者が増えたときの対人関係に不安がある人もいる。林さんは、共用スペースの利用などでトラブルがありそうで不安だと話す。また、同じ宿舎に住む上級生とのコミュニケーションの取り方も心配に思っているようだ。

6月末から入居が再開し、宿舎で暮らす人は今後増えていく。そのとき、より多くの入居者が快適に生活できるように、一人ひとりが配慮する必要がある。たとえば、共有スペースでは大音量で音楽を流さない、調理場を使った後は片付けや掃除をしっかりと行うといった、基本的なマナーを自分は守れているのか、入居

者一人ひとりが一層確認することが求められる。また、上級生との交流を深めるために、わからないことがあれば上級生に聞くことも、これから宿舎でより快適に過ごすためには必要になってくるかもしれない。

不安を解消し自分の生活を豊かにするには、自分の行動を見直す必要がある。その際に自分中心の考え方になるのではなく、他の宿舎入居者に配慮しながら生活していくことが、これから入居者が増えていくにあたって重要になってくるだろう。



自宅通学者の自粛期間

新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から対面授業が中止された春学期、自宅通学者は自宅での受講を余儀なくされた。

「自宅での受講は家族との連携が大変だった」と足立結香さん（生物資源学類2年）は話す。家族には、マイクを使う授業を受けている最中はテレビをつけたり、掃除機をかけないことなどを頼んだそうだ。しかし、一日中普段の授業を受ける環境を継続することは困難であり、授業の動画を視聴しているときに家族の話し声が聞こえるなど、自宅での受講は普段の対面授業にはない障害があったという。

また、授業で学習した内容を確認する方法が少ないことも障害となったそうだ。疑問点を逐一友人に尋ねるのも迷惑になると考え、ほとんどの疑問点を自力で解決したという。「つくばに行けないため大学の人たちとの交流が明らかに減り、相談がしづらい状況だ」と足立さんは語る。

実家という新たな受講環境

新型コロナウイルス感染症の影響によって、本来講義を受ける場ではない実家での受講を余儀なくされた学生も数多く存在する。中山皓太さん（情報メディア創成学類2年）はそのような学生の一人だ。中山さんは今年度の春学期開始時から6月上旬までつくば市内のアパートで講義を受講していた。しかし、家庭の事情により6月上旬に急遽実家へ帰らざるを得なくなり、残る春学期の講義やレポート課題などは実家で行ったという。

実家の学習環境について「必要なテキストは持参していたことなどもあり、苦労はほとんどなかった」と中山さんは話す。ただ、つくばには自分に合った椅子や机、良好な通信環境があり、それらに慣れてしまったために実家の環境に対応するのに手間取ったという。また、家族や親戚の中にはオンライン受講を行っている大学生は時間的余裕があると考えている人も多数おり、家では家族や親戚から様々な家事や家業の手伝いを任されたそうだ。「手伝いをしていたことで、実家では一人暮らしの頃よりも学習に充てる時間が減った」と中山さんは語る。

アパート生活での不安

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、アパートで生活する学生の中には健康を守るための対策を行うなどの例年とは異なる困難を抱えている人もいる。

永島日向子さん（比較文化学類1年）は、「買い物の際、マスクやハンドソープ、アルコール消毒液などの残量を常に気にしながら購入しなければならない」と話す。食べ物を買う場合も、他者との接触を避けるためバイキング形式の惣菜や外食は控えている。また、体調を崩したときに周囲の人に余計な心配をかけたくないと思うあまり、人に相談すべきか病院に行くべきかの判断に迷ったという。外出する場合も、人と会うときに様々な制限があることやコンビニさえ気軽に行けないことが大きなストレスになっていると語った。

特に1年生は一人暮らしを始めたばかりということもあり、慣れない環境の中で生活をしなければならない不安が大きいようだ。現在、新型コロナウイルス感染症が再び猛威を振るっている。今後もある程度の期間は感染防止のための対策が不可欠だろう。

用語解説

【リアルタイム授業】

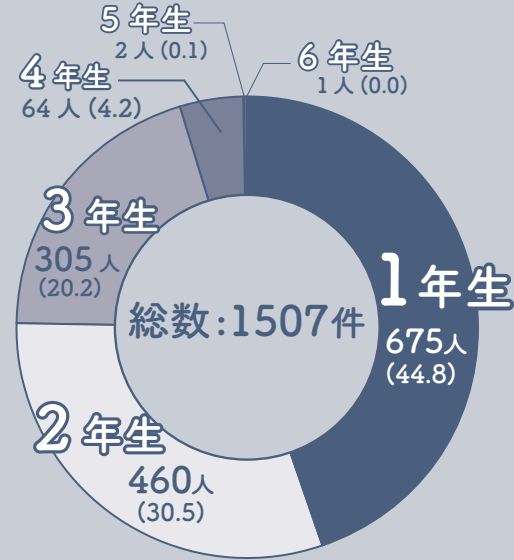
決められた時間に開始する授業にリアルタイムで参加する授業形式のこと。授業を受ける学生も発言やプレゼンテーションが行える電子会議のシステムを用いるケースと、ライブ配信されている授業を視聴するケースの2つがある。本学では主に、ZOOM や Microsoft Teams, Cisco Webex Meetings といった電子会議システムが用いられた。

【オンデマンド型授業】

事前に教員がアップロードした授業動画を、学生が期間内であればいつでも何度でも視聴できる授業形式のこと。本学では主に Microsoft Stream, Youtube, manaba といった媒体が用いられた。

全代会アンケート報告 (令和2年5月実施アンケート)

令和2年度の筑波大学はオンライン体制で始まった。キャンパスへの入構は基本的に禁止され、全ての講義がオンライン形式で実施された。加えて春学期の開始時期が1か月ほど遅れた結果、夏季休業の開始を遅らせないため春 AB モジュールで土曜授業が実施された。オンライン形式と土曜授業、2つの新しい要素が学生に及ぼした影響はどのようなものだったのか。全学学類・専門学群代表者会議（以下、全代会）は学生に対する全学的なアンケートを実施し、総数 1,507 件の回答を得た。結果は全代会教育環境委員会によって大学側に提出され、今後のオンライン授業の検討に用いられる予定だ。この記事では統計的な結果に加え、自由記述として寄せられた様々な意見を紹介する。全調査結果は全代会の HP にて公開されるため、気になる方はそちらも確認してみてください。



Q. 学年をお答えください

Q. 体育の授業について、本来基礎体育は1年間で2種目であったのが1種目になってしまったのについてどう思いますか。

回答	人数	割合 (%)
春と秋で2種目行いたかった	373人	55.3%
特に何も感じていない	245人	36.3%
その他の意見↓(抜粋)	57人	8.4%

肯定的意見

運動が苦手なのでありがたい

春学期に第一希望が通っていたので嬉しかった

中立的意見

1種目になったのはかまわない

個人的に嬉しい変更だったが事前予告がないことはよくないことだ。

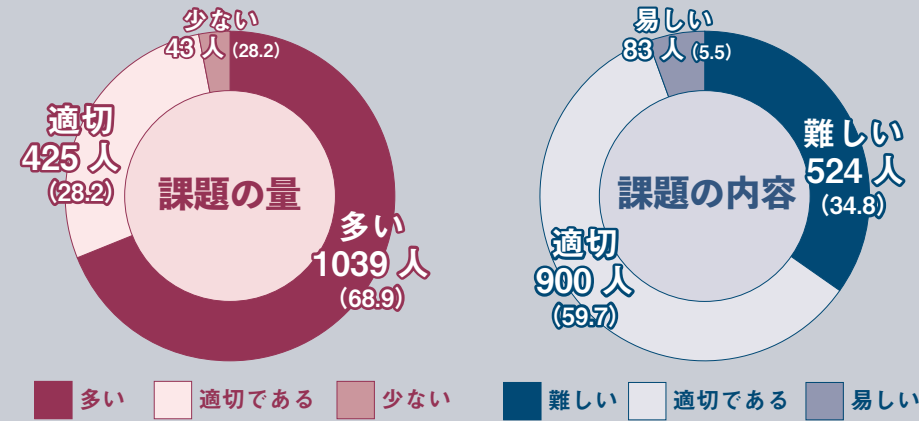
否定的意見

事前の連絡なしの変更は横暴

春はオンライン授業になるからあえて秋学期に本当にやりたい科目を入れたのに...

Q. 講義で出される課題は適切だと思いますか。

回答



課題に対する評価は「内容は適切であるが量が多い」というものが最も多かった。一つ一つの課題は適切であったが、例年より多くの課題が実施されたことで課題の総量が多くなってしまったことが要因か。

学生の声

(一部抜粋)

課題の内容

友人と相談できないため、課題がこなせないのは自分の能力が足りないからなのかと考え、筑波大学に来るべきではなかったのかと考えてしまう。

授業を丁寧に受けられない、作業になっている。

レポート課題には反応が欲しい。

図書館が利用できないため、調べにくい。ネット上の情報は信用できるかわからない。

課題の量

課題に追われ、夜は不安で寝付けられないことも多々あります。

土曜授業があるので間に合わない。

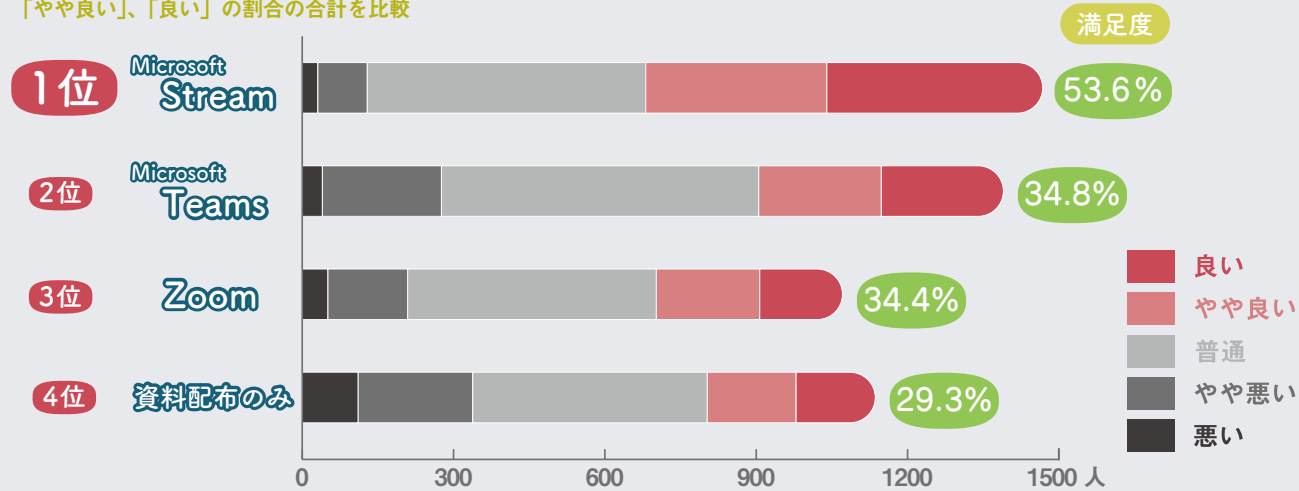
教員が学生の大変さを理解していない。

履修した授業以外で自分の興味関心を持つことについて活動する時間も少ない。

番外編 オンライン授業で用いられたアプリ調べてみました！

満足度ランキング 講義で用いられたアプリとその使い勝手について聞きました。

「やや良い」、「良い」の割合の合計を比較



その他のアプリ

manaba, mediasite, Microsoft PowerPoint, Youtube, Slack, Google Classroom, OneDrive, Dropbox, Calabo MX, flipgrid, Edomodo, Schoology, cave lab, Microsoft SharePoint・Discord, Google Meet, Jitsi, LINE, mural, Twitter, codomd, Vimeo, Cisco Webex Meetings, NACSIS-CAT (順不同)

Q. オンライン授業全体を通して何かあればご自由にお書きください。

回答 (一部抜粋)

- ・(グループワークの際) タイピングの速度や、相手の話し始めるタイミングがわからないという問題で直接話すように議論が円滑に進まないといった事態も発生していた。
- ・施設料などは使っていないのに返ってこないのでしょうか。
- ・課題も出せているし、多分漠然としたものだと思いますが、不安です。
- ・課題も授業もすべてパソコン上で行わざるをえず、丸一日休みなくパソコンの操作を必要とされるため、肩こり眼精疲労が受験期の比でないほどであり、健康被害が異常です。
- ・(長い時間をかけて) 自宅から通学している身からするとこういったシステムは非常にありがたい。朝に無理して起きなくても良いし、授業中に疲れたら自由に伸びをしてリフレッシュできる。勿論ずっとオンライン講義なのは負担が大きいですが、一つの制度として導入していくのは良いと思う。心身の不調で通学できない人でも、オンラインなら大丈夫という人がいるかもしれないし、休学しなくても良いかもしれない。
- ・Streamでの講義の録画配信は停止機能や倍速機能があり普通の講義より格段に時間をかけず、効率的に学習できるため、コロナが収束しても継続して欲しい。
- ・シラバスが全体的に更新されておらず、また更新されているのか分からない状態であり、履修を組む際とても苦労した。こういう事態だからこそ最終更新日を記載してほしい。



参考文献リスト

・2021年度筑波大学入学案内

https://www.d-pam.com/tsukuba/206775/index.html#target/page_no=163

(閲覧日：2020.8.26)

・オンライン授業受講案内 | 筑波大学学術情報メディアセンター

<https://www.cc.tsukuba.ac.jp/wp/remote-lecture-students/>

(閲覧日：2020.8.20)

発行 全学学類・専門学群代表者会議
広報委員会

発行日 2020年9月1日

<https://www.stb.tsukuba.ac.jp/~zdk/home/>

zdk@stb.tsukuba.ac.jp